

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 浜松学院大学

1 事業の趣旨・目的

浜松学院大学は、平成 21 年度文化庁「日系人等を活用した日本語教室の設置運営」委託事業として、短期間であるが浜松市内の外国人学校 6 校に外国人の子どもが参加できる日本語教室を設置し、不就学に陥るリスクのある外国人の子どもに対して教育継続の機会と場を創出した。

2009 年度は、「ヤラマイカ日本語教室」を学校法人として認可されているムンド・デ・アレグリア学校に設置し、新たに到達度目標別に 8 コース（①母語話者による母語を媒介とした日本語講座②生活者のためのサバイバル漢字講座③生活者のためのサバイバル会話講座④就労対策講座コース⑤日本語能力検定試験対策講座 ⑥職業対策講座⑦地域交流活動から学ぶ日本語⑧スポーツを通して学ぶ日本語体験型日本語講座）を設定して、目的別日本語教室を充実させることを目的とする。

2 運営委員会・准運営委員会の開催について

運営委員会としての開催は 1 回のみであるが、事業実施前に事業運営に関して出席可能な運営委員及び事業運営に関わる関係者と打ち合わせを運営委員会に准ずる会議を実施した。

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
平成 21 年 6 月 10 日 (准運営委員会)	岡則子、米勢治子、津村公博、(松本ムンド・デ・アレグリア校長、三沢芳弘浜松学院大学経理担当、加藤次男文化庁委託事業担当事務)	「文化庁委託事業の授業開始までの準備についてー事業予算変更における事業実施計画の見直し」	① 授業の縮小についての打ち合わせ ② 通訳・翻訳の活用について
平成 21 年 7 月 3 日 (准運営委員会)	津村公博、岡則子、(松本ムンド・デ・アレグリア校長、柘植ムンド・デ・アレグリア事務長、川添コーディネーター、三沢芳弘浜松学院大学経理担当、加藤次	「予算変更における事業の縮小とコーディネーターの役割について」	①本事業参加受講生の募集②日本語授業の縮小、コーディネーターの役割と責任について② ③事業経費について

	男文化庁委託事業担当事務)		
(運営委員会)	岡則子、白鳥純也、澤田敬人、吉田佐織、米勢治子、横内美保子、二井紀美子、津村公博(川添コーディネーター、三沢芳弘浜松学院大学経理担当)	文化庁委託事業「ヤママイカにほんご教室一成果報告と今後の授業について」	業務内容、業務実施体制、業務実施期間、業務経費を紹介し、本事業実施授業の学習・活動内容、学習成果について説明した。 【資料参照】

【写真】



【参考資料 運営委員会の議事録】

2009 年度 文化庁委託事業「ヤラマイカにほんご教室」運営委員会 会議の概要

日時：平成 21 年 10 月 29 日（木）

場所：浜松学院大学 会議室

出席者：本事業運営委員会委員及び事務局担当者

報告事項

1. 本事業運営委員会委員による挨拶

岡則子、白鳥純也、澤田敬人、吉田佐織、米勢治子、横内美保子、二井紀美子、津村公博（発言順 敬称略）

2. 本委託事業実施授業進捗状況に関する報告・・・・・・・・津村公博

（1）本事業委託の経緯

リーマンショック以降、外国人学校を退学した南米日系人の子どもへの緊急支援として浜松市を媒介として、2008 年度文化庁の「日系人を活用した日本語教室の設置運営」事業を委託された状況と経緯を説明

（2）本事業計画書

委員会に配布した本事業計画書を資料として、以下業務内容、業務実施体制、業務実施期間、業務経費を簡単に紹介

「母語話者による母語を媒介としや日本語講座」、「生活者としてのサバイバル漢字講座」、「生活者としてのサバイバル会話講座」「就労支援のための日本語講座」、「日本語能力検定試験対策講座」、「職業体験講座」、「地域交流活動から学ぶ日本語」「スポーツを通して学ぶ日本語」

（3）本事業の進捗状況

本事業実施授業の学習・活動内容について簡単に紹介

「母語話者による母語を媒介とした日本語講座」、「就労支援のための日本語講座」「職業体験講座」、「スポーツを通して学ぶ日本語」、「地域交流活動から学ぶ日本語」

3. **協議事項**

事業についての質問・助言（発言順 敬称略）

白鳥純也：本事業の遂行に関して、浜松市の役割（国との仲介と事業実施に伴う調整）を高く評価する。

澤田敬人：「母語話者による母語を媒介とした日本語講座」の意義を評価した。

（質問）申請した額が半分に削られている。申請時の講座からの変更等について教えて欲しい。

津村公博：（回答）講座を変更せずに、各講座の時間数を短縮した。

米勢治子：外国人の子どもの受け皿としてのブラジル人学校の認知が求められる。

横内美保子：前年度で築いたブラジル人学校のネットワークを活用して、事業成果を共有する必要性である。

二井紀美子：事業計画書では、各講座の対象が大人なのか子どもなのかわかりにくい。文化庁への報告には、明確にした方が良い。

（質問 1）「日本語能力検定試験対策講座」の対象は子どもか大人なのか教えて欲しい。

（質問 2）「母語話者による母語を媒介としや日本語講座」、「生活者としてのサバイバル漢字講座」、「生活者としてのサバイバル会話講座」「就労支援のための日本語講座」、のそれぞれの講座の受講者は、講座を重複して受講しているのか？学習内容の難易により、受講する順番などがあるのか。

（質問 3）「職業体験講座」、「スポーツを通して学ぶ日本語」、「地域交流活動から学ぶ日本語」などの地域で実施する講座の必要性を教えて欲しい。

岡則子：（質問 1 への回答）：子どもと大人の両方である。

（質問 2 への回答）：「母語話者による母語を媒介としや日本語講座」の受講者は、次に「生活者としてのサバイバル漢字講座」、「生活者としてのサバイバル会話講座」の二つの講座を受講している。さらに、その後に就労支援のための日本語講座を受講するなど講座は体系的に配置されている。

（質問 3 への回答）：必要である。例えば、「職業体験講座」では、海外日系人協会において「夢の架け橋プロジェクト」奨学金の説明会を受けた。受講生たちの学習意欲を非常に高める結果となった。実際に応募して、二次審査まで進んでいる受講生もいる。

吉田佐織：「職業体験講座」（質問）受講生が講座後期で少なくなっている。理由を教えてください。

岡則子：（質問への回答）：講座開設中で就職が決定する者がいるからである。

吉田佐織：文化庁の報告には、そのように報告して欲しい。

3 日本語教室の開催について

I. 母語話者による母語を媒介とした日本語講座

- ① 日本語教室の名称：母語話者による母語を媒介とした日本語講座
- ② 開催場所：ムンド・デ・アレグリア学校
- ③ 学習目標：ひらがな・カタカナ学習・簡単な日本語会話を日本語講師と日本語が話せる母語話者がチームティーチングすることにより、入門期の日本語指導をスムーズにする。
- ④ 使用した教材・リソース：ひらがな・カタカナのプリント、ひらがな・カタカナのカード
- ⑤ 受講者の募集方法：ムンド・デ・アレグリア学校が外国人コミュニティに持つソーシャル・ネットワークを活用して受講生を募集した。
- ⑥ 受講者の総数 17 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 2 期(1 期 10 時間) 20 時間 (全 10 回)
- ⑧ 日本語教室の具体的内容：別紙添付資料をご参照ください。(授業見学記録)

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容
第1回	7月3日 13:30~14:30	1時間	3人	・ 自己紹介・挨拶・ひらがな「あ行～か行」、か行までの語彙
第2回	7月6日 13:30~14:30	1時間	12人	・ 自己紹介・確認テスト・「さ行～な行」、な行までの語彙
第3回	7月10日 13:30~14:45	1時間	10人	・ 挨拶・確認テスト・「は行～ま行」、ま行までの語彙
第4回	7月13日 13:30~14:30	1時間	10人	・ 挨拶、確認テスト、「や行～ん」、「ん」までの語彙
第5回	7月17日 13:30~14:30	1時間	9人	・ 確認テスト・濁音、拗音、濁音、拗音の語彙
第6回	7月20日 13:30~14:30	1時間	7人	・ 確認テスト・促音、長音、促音、長音の語彙
第7回	7月24日 13:30~14:30	1時間	6人	・ ひらがなテスト・カタカナ「ア行～ナ行」・ナ行までの語彙
第8回	7月27日 13:30~14:30	1時間	4人	・ 確認テスト・「ハ行～ン」、「ン」までの語彙
第9回	7月31日 13:30~14:30	1時間	6人	・ 確認テスト・濁音・拗音・促音・長音・語彙
第10回	10月12日 10:20~11:20	1時間	2人	・ ひらがなの学習・プリント、公文の絵カード使用

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
ジョアオ パウロ	ブラジル	14 年	25 回	講師・補助
サラ ヨシサト	ペルー	2 年	25 回	講師・補助

4 事業に対する評価について

- ① 当初の学習目標の達成状況: 達成できた。
- ② 学習者の習得状況: 授業時間全体を通して、学習者はかなり真剣な様子で文字学習に取り組んでいた。講師はバイリンガルの先生が担当しており、学習者は、疑問に思いうことを母語で質問していた。このような環境において、初級の学習者にはストレスを感じる事が少なく、学習意欲の継続に繋がると感じた。
- ③ 日本語教室設置運営の効果, 成果: バイリンガル講師による授業は母語で質問できる環境であるため、日本語学習の初心者も安心して授業に参加できた。受講者から授業の進め方、指導者の教え方についても評価を得ることができた。
- ④ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)
 - a. 現状

地域には、学習者の母語を介して日本語教室が少なく、担当できる教員が不足している。
 - b. 今後の課題

外国人を対象として、日本語教員の養成講座などを開催していく必要がある。
- ⑤ その他参考資料: 受講者へのアンケート添付参照

受講者 アンケート 1期

0 9 / 0 7 / 3 1 クラス：母語話者による母語を媒介とした日本語講座

回答者…6名。 □の中の数字は人数。

1. 授業回数は

☐0 多かった ☒3 ちょうど良かった ☒3 少なかった

2. 授業の頻度（週2回）は

☐0 多かった ☒2 ちょうど良かった ☒3 少なかった ☒1 無回答

3. 授業の進度は

☒2 速かった ☐0 少し速かった ☒4 ちょうど良かった ☐0 少し遅かった ☐0 遅かった

4. 一回の授業時間（60分）は

☐0 長かった ☒3 ちょうど良かった ☒3 短かった

5. 先生の教え方は

☒1 とてもわかりやすかった ☒5 わかりやすかった ☐0 まあまあわかりやすかった
☐0 少しわかりにくかった ☐0 わかりにくかった

6. 母語を使った授業は

☒3 とても良かった ☒3 良かった ☐0 あまり良くなかった ☐0 良くなかった

7. 授業の中で良くわかったこと、難しかったことがあれば、具体的に書いてください。

- ひらがなとカタカナの勉強の期間中むずかしくなかったです。
- 私には理解しやすかった。簡単だった。
- カタカナとひらがなは難しくありませんが、似た形のが難しいです。（ツ・シ、ソ・ン、は・わ）
- おしえてありがとうございました。（日本語での回答）
- 難しかったです。先生たちが原因ではなく日本語自体が難しいからです。
- 書くことより読むことのほうが簡単です。ことばの書きは書き方があり、読み方もちがったりして私には難しかったです。

8. 授業、その他についての意見がありましたら、自由に書いてください。

- よくなるためには日本語の会話をするべきです。
- わたしにとってはよかったです。
- よかったです。ありがとうございます。
- 忍耐強く教えて頂きありがとうございます。
- もっと時間があれば。
- 日本語を覚えることはとても難しいので忍耐強く教えて下さい。

受講者アンケート

日付 09/10/12 クラス：母語話者による母語を媒介とした日本語講座 II期

回答者…2名。 □の中の数字は人数。

1. 授業回数は

☐多かった

☒ちょうど良かった

☐少なかった

2. 授業の頻度（週2回）は

☐多かった

☒ちょうど良かった

☐少なかった

3. 授業の進度は

☐速かった

☐少し速かった

☒ちょうど良かった

☐少し遅かった

☐遅かった

4. 一回の授業時間（60分）は

☐長かった

☒ちょうど良かった

☐短かった

5. 先生の教え方は

☐とてもわかりやすかった

☒わかりやすかった

☐まあまあわかりやすかった

た

☐少しわかりにくかった

☐わかりにくかった

6. 母語を使った授業は

☒とても良かった

☐良かった

☐あまり良くなかった

☐良くなかった

Ⅱ. 生活者のためのサバイバル漢字講座

- ① 日本語室の名称：生活者のためのサバイバル漢字講座
- ② 開催場所： ムンド・デ・アレグリア
- ③ 学習目標：日常生活に必要な漢字・会話を学習することで日本社会で生活していく上で必要最低限の日本語を身につける。
- ④ 使用した教材・リソース：フラッシュカード、漢字カード
- ⑤ 受講者の募集方法：ムンド・デ・アレグリア学校が外国人コミュニティに持つソーシャル・ネットワークを活用して受講生を募集した。
- ⑥ 受講者の総数： 16 人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数)： 第 1 期 30 時間 (全 15 回) 第 2 期 46 時間 (全 23 回)
- ⑧ 日本語教室の具体的内容：別紙添付資料をご参照ください。(授業見学記録)

第 1 期：

回 (※)	開催日	時間数	受講人数	内容
第 7 回	8 月 31 日 13:00～14:00	1 時間	8 人	・ これまで学習した漢字の復習・フラッシュカード使用
第 14 回	9 月 24 日 12:45～13:45	1 時間	4 人	・ テキスト 4 課 漢字の意味・漢字カード使用

第 2 期：

回 (※)	開催日	時間数	受講人数	内容
第 1 回	1 0 月 1 日 13:00～14:00	1 時間	6 人	・ 漢字の意味 復習 (第 1 回～第 4 回)
第 2 回	1 0 月 5 日 13:00～14:00	1 時間	9 人	・ 漢字の語彙 復習 ・ 漢字熟語
第 3 回	1 0 月 1 2 日 13:00～14:00	1 時間	7 人	・ 漢字の語彙 復習 ・ 漢字熟語
第 4 回	1 0 月 1 5 日 13:00～14:00	1 時間	7 人	・ 漢字の意味 導入 (見・元・先・天・文・父・母・行・ 毎・海・東・西・南・北・耳・門・聞・間)
第 5 回	1 0 月 1 9 日 13:00～14:00	1 時間	5 人	・ 漢字の書き方 ・ 漢字の語彙
第 6 回	1 0 月 2 2 日 13:00～14:00	1 時間	3 人	・ 漢字の意味 復習 (第 1 回～第 5 回)・漢字熟語
第 7 回	1 0 月 2 6 日 13:00～14:00	1 時間	4 人	・ 漢字の意味 復習 (第 1 回～第 5 回)・漢字熟語
第 8 回	1 0 月 2 9 日	1 時間	4 人	・ 漢字の意味導入 (牛、午、年、前、後、高、銀、食、

	13:00～14:00			飯、飲、白、赤、青、言)
第9回	11月2日 13:00～14:00	1時間	7人	- 漢字の書き方 - 漢字の語彙
第10回	11月5日 13:00～14:00	1時間	6人	漢字の意味導入「牛、午、年、前、後、高、銀、食、飯、飲、白、赤、青、言、話、語、売、読、書」
第11回	11月9日 13:00～14:00	1時間	6人	- 漢字の書き方 - 漢字の語彙
第12回	11月12日 13:00～14:00	1時間	4人	漢字の意味導入「新、馬、駅、魚、米、来、雨、電、気、車、空、社、内、長、校、会、寺、待、時」
第13回	11月16日 13:00～14:00	1時間	6人	- 漢字の書き方 - 漢字の語彙
第14回	11月19日 13:00～14:00	1時間	4人	漢字の意味 導入「持、特、買、員、質、店、開、閉、問」・漢字の意味復習
第15回	11月23日 13:00～14:00	1時間	5人	- 漢字の書き方 - 漢字の語彙 ・漢字熟語
第16回	11月30日 13:00～14:00	1時間	4人	漢字の意味 復習（第6回～第8回）・漢字熟語
第17回	12月3日 13:00～14:00	1時間	5人	漢字の意味導入「自、首、道、週、重、動、働、早、花、草、茶」
第18回	12月7日 13:00～14:00	1時間	5人	- 漢字の書き方 - 漢字の語彙 ・漢字熟語
第19回	12月10日 13:00～14:00	1時間	4人	漢字の意味確認
第20回	12月14日 13:00～14:00	1時間	5人	- 漢字の書き方 - 漢字の語彙 ・漢字熟語
第21回	12月17日 13:00～14:00	1時間	4人	漢字の意味導入「車、転、運、軽、朝、昼、風、押、引」
第22回	12月21日 13:00～14:00	1時間	4人	- 漢字の書き方 - 漢字の語彙 ・漢字熟語
第23回	12月24日 13:00～14:00	1時間	3人	- 総復習 - 確認テスト

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)



⑩

活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
サラ ヨシサト	ペルー	2 年	20 回	講師

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況:達成できた

② 学習者の習得状況: 本講座は、生活に必要な漢字の習得であるが、受講した学習者の漢字の習熟度にかかなりの隔たりがあった。しかし、各々の受講者がそれぞれの日本語の能力を伸ばすことができた。その理由は、本講座に講師に加えて講師の補助者を配置したからである。漢字の練習をする際には、一人の講師が授業を進行しながら各々の受講生の進捗に気を配ることは難しいため、補助者による支援が非常に有効であった。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果:

生活に根ざした漢字の習得を目的とした教室を設置については、学習目標が明確で、学習者の動機づけを強化でき成果を得たと考える。

④ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

特定の言語項目/言語形式の習得をする日本語教室の開催は、少ないのが現状である。

b. 今後の課題

日本語の日常会話能力はある程度身につけていながら、読み書きの能力を向上させることが出来ず日常生活や社会生活の様々な場面で主体的な言語活動ができないため、社会的な上昇につながらない外国人が多い。地域の中で主要な構成員として活動できるように、漢字の習得へのニーズが高いと言える。そのため、地域における様々な生活場面における言語活動を保障する段階的なカリキュラムの編成が必要である。

Ⅲ. 生活者のためのサバイバル会話講座

- ① 日本語教室の名称：生活者のためのサバイバル会話講座
- ② 開催場所：ムンド・デ・アレグリア学校
- ③ 学習目標：言語習得のレベルから言えば、外国人の子どもの読み書きの力は学校での教科学習に対応できるところまでには達していないのが現状である。この講座で作文・読解・漢字指導を強化することにより、学年相当の日本語学習言語能力の獲得を目指す。
- ④ 使用した教材・リソース：チェンドリル、
- ⑤ 受講者の募集方法：ムンド・デ・アレグリア学校が外国人コミュニティに持つソーシャル・ネットワークを活用して受講生を募集した。
- ⑥ 受講者の総数 20 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 第1期 30 時間(全 15 回) 第2期 46 時間(全 23 回)
- ⑧ 日本語教室の具体的内容：別紙添付資料をご参照ください。(授業見学記録)

第1期：

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容
第1回	8月3日 14:00～15:15	1.25 時間	8人	・自己紹介 ・チェンドリル使用
第2回	8月6日 13:45～14:45	1 時間	7人	・前回の復習と年齢の言い方 ・チェンドリル使用
第7回	8月31日 14:00～15:00	1 時間	6人	・行きます、来ます、の復習 ・チェンドリル使用
第14回	9月24日 13:45～14:45	1 時間	5人	文法(過去、否定)・チェンドリル使用

第2期：

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容
第1回	10月1日 14:00～15:00	1 時間	9人	・～ができます。／できません。
第2回	10月 5日 14:00～15:00	1 時間	7人	・趣味は～ことです
第3回	10月12日 14:00～15:00	1 時間	6人	・～てから、～します
第4回	10月15日 14:00～15:00	1 時間	5人	・～に～があります／います ・～に～がありません／いません

第5回	10月19日 14:00~15:00	1時間	6人	・ 《場所》の《位置詞》に～があります／ありません ・ 《場所》の《位置詞》に～がいます／いません
第6回	10月22日 14:00~15:00	1時間	1人	・ ～が上手です／下手です
第7回	10月26日 14:00~15:00	1時間	3人	・ ～が好きです／嫌いです ・ どんな～が好きですか
第8回	10月29日 14:00~15:00	1時間	4人	・ どんな仕事をしたことがありますか ・ 免許を持っていますか
第9回	11月 2日 14:00~15:00	1時間	9人	・ ～がわかります ・ ～があります ・ （所有）を持っています ・ 《用事／約束》があります
第10回	11月 5日 14:00~15:00	1時間	8人	・ 形容詞 ・ 形容詞文：～は～です
第11回	11月 9日 14:00~15:00	1時間	9人	・ ～は～です ・ ～は～じゃありません／～くないです（否定文）
第12回	11月12日 14:00~15:00	1時間	4人	・ ～はどうですか（感想を聞く／述べる）日本の電車はきれいです。そして便利です。 日本の車は高いです。
第13回	11月16日 14:00~15:00	1時間	8人	・ ～はどんな～ですか
第14回	11月19日 14:00~15:00	1時間	6人	・ 形容詞総まとめ ・ 活動（インタビュー）、クイズ
第15回	11月23日 14:00~15:00	1時間	7人	・ 動詞復習 ・ ゲーム
第16回	11月30日 14:00~15:00	1時間	6人	・ て形導入 ・ ～て ください
第17回	12月 3日 14:00~15:00	1時間	7人	・ て形復習 ・ ～て、～て ～ます（文の接続）
第18回	12月 7日	1時間	6人	・ た形導入、～た ことがあります／

	14:00～15:00			ありません
第 19 回	1 2 月 1 0 日 14:00～15:00	1 時間	5 人	・ た形復習 ・ 活動（インタビュー）
第 20 回	1 2 月 1 4 日 14:00～15:00	1 時間	7 人	・ た形復習 ・ ～たり、～たり します
第 21 回	1 2 月 1 7 日 14:00～15:00	1 時間	6 人	・ もし ～たら、 ～。（動詞のみ）
第 22 回	1 2 月 2 1 日 14:00～15:00	1 時間	6 人	・ 可動動詞導入 ・ ～がVられます／Vられません
第 23 回	1 2 月 2 4 日 14:00～15:00	1 時間	4 人	・ 可動動詞復習 ・ ペアワーク・インタビュー

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
カイチョ・マックス	ペルー	11 年	23 回	講師

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況:達成できた

② 学習者の習得状況:講師が母語話者ということもあり、学習者からは母語で活発に質問が出ていた。授業は「聞くこと」「話すこと」の能力の育成が強調され、授業の中で学習者が楽しみながら取り組めるような言語活動が盛んに行われた。授業の回数を重ねるにつれて、学習者の日本語でのコミュニケーション能力の向上が確認できた。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

母語を介して日本語会話能力を身につける教室を設置する意義は大きい。南米日系人の

外国人労働者は日本語を生活する上で必要な第二言語であることを十分に認識しながらも、日本文化及び日本語に対して社会心理的な距離を置く者も多い。そのため、楽しみながら日本語のコミュニケーション能力を伸ばせる環境を作ることは、学習者の言語習得における情意的要因の視点から意義がある。

④ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

日本語教授法を学んだ指導者が少ないのが現状である。

b. 今後の課題

学習者が属する言語集団から日本語指導者を養成していくことが大事である。

⑤ 他の参考資料 受講者アンケート

受講者アンケート

日付 09/10/15 クラス：サバイバル会話クラス 1 期

回答：7 名

◎今後の日本語教室事業のために、みなさんのご意見をお聞かせ下さい。

1. 授業回数は

☐0 多かった

☒2 ちょうど良かった

☒5 少なかった

2. 授業の頻度は

☐0 多かった

☒3 ちょうど良かった

☒4 少なかった

3. 授業の進度は

☒1 速かった

☒2 少し速かった

☒3 ちょうど良かった

☒1 少し遅かった

☐0 遅

かった

4. 一回の授業時間は

☐0 長かった

☒3 ちょうど良かった

☒4 短かった

5. 先生の教え方は

☒2 とてもわかりやすかった

☒5 わかりやすかった

☐0 まあまあわかりやすか

った

☐0 少しわかりにくかった

☐0 わかりにくかった

6. 母語を使った授業は

☒4 とても良かった

☒2 良かった

☐0 あまり良くなかった

☒1 良くなかった

IV. 就労支援のための日本語講座

- ① 日本語教室の名称：就労支援のための日本語講座
- ② 開催場所：ムンド・デ・アレグリア学校
- ③ 学習目標：日本語能力検定の語彙・漢字・文法を積み上げ、読解・聴解の技術を学び日本語能力検定試験合格を目指す。
- ④ 使用した教材・リソース：【手作り教材】テキスト—大地 副教材—大地問題集・みんなの日本語聴解タスク、漢字導入プリント(ムンド自作)「十の画べえ」パズル、漢字テストプリント(ムンド自作)、履歴書用紙(コピー)【市販教材】テキスト—大地 副教材—大地問題集・みんなの日本語聴解タスク、履歴書用紙(コピー)
- ⑤ 受講者の募集方法：ムンド・デ・アレグリア学校が外国人コミュニティに持つソーシャル・ネットワークを活用して受講生を募集した。
- ⑥ 受講者の総数 15 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 第1期 44 時間(全 44 回)
- ⑧ 日本語教室の具体的内容：別紙添付資料をご参照ください。(授業見学記録)

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容
第1回	7月1日 15:30～16:30	1時間	4人	・レベルチェック・参加にあたっての注意事項
第2回	7月2日 15:30～16:30	1時間	6人	・名前、国、住まい、電話番号、時の言葉、動詞非過去肯定 ・否定形 ・L4～を～ます。何を～ますか ・自己紹介をしてみよう、質問に答えよう
第3回	7月3日 15:30～16:30	1時間	6人	・L4～ます。それから、～ます。～ますか。はい、～ます。いいえ、～ません。何も～ません。(場所)で～を～ます。地名の漢字認識(磐田市、雄踏町など) ・通勤圏内の地名を漢字で認知しよう
第4回	7月7日 15:30～16:30	1時間	4人	・就職情報誌を見るために必要な漢字①(書き指導不要・バイリンガル教師が担当)
第5回	7月8日 15:30～16:30	1時間	5人	・時の言葉(毎～) ・L4タスク・作文・L4復習のための聴解 ・就業時間、休みを聞いてみよう
第6回	7月9日 15:30～16:30	1時間	6人	・L5時間・時の言葉(過去)・～は今何時ですか ・～時です・V非過去・過去形
第7回	7月10日	1時間	6人	・L5～時に～ます

	15:30～16:30			・ ～時から～時まで～ます。
第 8 回	7 月 1 4 日 15:30～16:30	1 時間	5 人	・ 就職情報誌を見るために必要な漢字②（書き指導不要・バイリンガル教師が担当） ・ 就職情報誌を見て、仕事を探そう
第 9 回	7 月 1 5 日 15:30～16:30	1 時間	4 人	・ L 5 V 過去・過去形否定形
第 10 回	7 月 1 6 日 15:30～16:30	1 時間	5 人	・ L 5 会話・タスク ・ L 5 復習のための聴解
第 11 回	7 月 1 7 日 15:30～16:30	1 時間	5 人	・ L 5 作文 ・ 私の一日
第 12 回	7 月 2 1 日 15:30～16:30	1 時間	5 人	・ 就職情報誌を見るために必要な漢字③（バイリンガル教師が担当） ・ 履歴書のための漢字①住所 ・ 住所を漢字で書いてみよう
第 13 回	7 月 2 2 日 15:30～16:30	1 時間	3 人	・ L 6 往来動詞 いつ（どこ）へ～ますか。 ・ 何で～ますか。 ・ だれと～ますか。 ・ 来日はいつか言ってみよう。
第 14 回	7 月 2 3 日 15:30～16:30	1 時間	4 人	・ L 6 ～ませんか。 ・ 仕事上での文化の違いを学習しよう。
第 15 回	7 月 2 8 日 15:30～16:30	1 時間	2 人	・ 就職情報誌を見るために必要な漢字④（バイリンガル教師が担当）履歴書のための漢字②資格 ・ 持っている資格を漢字で書いてみよう
16 回	7 月 2 9 日 15:30～16:30	1 時間	4 人	・ L 6 会話・タスク・作文 ・ L 6 復習のための聴解 ・
第 17 回	7 月 3 0 日 15:30～16:30	1 時間	3 人	・ まとめテスト（L 1～L 6）・動詞復習テスト、L 7 形容詞、肯定文 ・ 感想を言ってみよう
第 18 回	7 月 3 1 日 15:30～16:30	1 時間	2 人	・ L 7 形容詞（い形容詞）形容詞否定文 ・
第 19 回	8 月 4 日 15:30～16:30	1 時間	1 人	・ 就職情報誌を見るのに必要な漢字⑤（バイリンガル教師が担当）漢字の画 ・

第20回	8月5日 15:30～16:30	1時間	2人	・ L8 ～があります／います。～に～があります／います。～の～に ～があります／います。
第21回	8月6日 15:30～16:30	1時間	1人	・ L8 ～は～にあります／います。～はどこにありますか。～に～が○人います。
第22回	8月 7日 15:30～16:30	1時間	1人	・ ～は何人いますか。 ・ 会話・タスク・作文 ・ L8 復習のための聴解
第23回	8月18日 15:30～16:30	1時間	1人	・ 生活の漢字②（バイリンガル教師が担当）、漢字の留め、はらい等画のルール、書き順のルール・町で見かける漢字を覚えよう・漢字のルールを学ぼう
第24回	8月19日 15:30～16:30	1時間	1人	・ L9 ～が好きです／嫌いです ～が好きですか。→はい、好きです。／いいえ、嫌いです。どんな～がすきですか。～が上手です。／下手です。自分の嗜好について話そう。
第25回	8月20日 15:30～16:30	1時間	1人	・ ～が分かりますか。→はい、分かります。／いいえ、分かりません。（よく、だいたい、少し、あまり、全然）～ですから、～。どうして～ますか。
第26回	8月21日 15:30～16:30	1時間	3人	・ L9 会話・タスク・作文 ・ L9 復習のための聴解
第27回	8月25日 15:30～16:30	1時間	4人	・ 生活の漢字②（バイリンガル教師が担当） ・ 漢字の意味をストーリーで覚える・漢字の意味を覚えよう
第28回	8月26日 15:30～16:30	1時間	5人	・ L10 ～に あげます／貸します・ ～にもらいます／借ります
第29回	8月27日 15:30～16:30	1時間	4人	・ L10 助数詞（ひとつ、～台・・）《道具》でVます 数を尋ねてみよう

第30回	8月28日 15:30～16:30	1時間	5人	・ L10 会話・タスク・作文 ・ L10 復習のための聴解
第31回	9月1日 15:30～16:30	1時間	1人	・ L11 ～は ～が ～です。・～は ～より～です。(比較文) ・ 特徴について述べてみよう。・自国の文化と比較しよう
第32回	9月2日 15:30～16:30	1時間	1人	・ L11 ～と ～と どちらが～ですか。・～はいちばん～です。
第33回	9月3日 15:30～16:30	1時間	2人	・ L11 文と文をつなぐ ～て、～。・人や物を描写しよう。
第34回	9月4日 15:30～16:30	1時間	1人	・ L12 会話・タスク・作文 ・ L12 復習のための聴解
第35回	9月8日 15:30～16:30	1時間	2人	生活の漢字③(バイリンガル教師が担当)・漢字の読み方・書き方を覚えよう。
第36回	9月9日 15:30～16:30	1時間	1人	・ L12 形容詞・名詞の過去形(肯定・否定)
第37回	9月10日 15:30～16:30	1時間	1人	・ L12 習慣を述べる時間の長さを表す ・ 自分の習慣や過去について説明してみよう。
第38回	9月11日 15:30～16:30	1時間		・ L12 会話・タスク・作文 ・ L12 復習のための聴解

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)



4 事業に対する評価について

- ① 当初の学習目標の達成状況: 達成できた
- ② 学習者の習得状況: 学習者は、就職に必要な日本語を学ぶことの必要性を実感しており、日本語の習得に積極的に取り組む姿勢が目立った。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

他の外国人学校と同様に、ムンド・デ・アレグリア学校に在籍する子どもの親の雇用状態は不安定である。外国人の子どもを教育現場から離脱させないためには、子どもの学費の負担に耐えることができるよう親の雇用を安定させることである。そのため、外国人学校に子どもを就学させる親を対象として、就労に必要な日本語能力を学べる日本語教室を外国人学校に設置する意義は大きいと思われる。

④ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

雇用する企業などが外国人に求める日本語能力のレベルさらに調査し、業種や職種、仕事内容により必要とされる日本語能力の基準を学習者である外国人に示すことができれば、学習意欲の向上につながると思われる。

V. 日本語能力検定試験対策講座 (1・2級) /(3級) /(4級)

① 日本語教室の名称：日本語能力検定試験対策講座 (1・2級) /(3級) /(4級)

② 開催場所：ムンド・デ・アレグリア学校

③ 学習目標：保護者の再就職のための、日本語指導を行い、就労に必要な語彙や表現など最低レベルの日本語の習得を目指す。

④ 使用した教材：チェンドリル、フラッシュカード

⑤ 受講者の募集方法：ムンド・デ・アレグリア学校が外国人コミュニティに持つソーシャル・ネットワークを活用して受講生を募集した。

⑥ 受講者の総数 30 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数)：(1・2級) 1期 (1期 105時間)
(3級・4級) 1期 (1期 109時間)

計画では1期30回としたが、経済不況後に日本語能力検定試験のニーズが高まり上記の通り、100時間を越える授業を実施した。

⑧ 日本語教室の具体的内容：別紙添付資料をご参照ください。(授業見学記録)

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容
第2回 (4級)	8月27日 13:45～14:30	45分	5人	・漢字、能力試験について ・テキスト使用
第4回 (3級)	9月10日 13:35～14:25	50分	8人	・文法：(～ながら～、～たいです)・フラッシュカード使用
第5回 (4級)	9月17日 13:35～14:25	50分	12人	・文法：～く(に)なります ・フラッシュカード使用
第7回 (3級)	10月1日 13:35～14:25	50分	8人	・文法：～ている・チェンドリル使用

⑨ 特徴的な授業風景(4級クラス(左)、3級クラス(右))



4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況:達成できた。

学習者の習得状況:少人数で講師の目が行き届き、学習者も授業の内容に興味を示していた。学習者は、検定試験に対して十分な動機づけも能力もあり。毎回真剣に授業に取り組んでいた。そのため、授業中は学習者からの質問や発言も多く、楽しく活気のある雰囲気であった。授業期間中に、それぞれの学習者が学習の進捗程度を確認するために模試を実施した。その結果については「その他の参考資料」を参照して頂きたい。

② 日本語教室設置運営の効果, 成果

外国人学校内に日本語能力検定試験の対策を目的とした授業を設置する意義は大きい。外国人学校の中には、日本語の授業はカリキュラム外に置き、成績さえも出さない学校もある。また、一般的に公立学校に在籍する子どもに比べて、学校生活の中で日本語でコミュニケーションを図る機会も少ない。そのような学習環境の中で、明確な学習目標を掲げることができる日本語能力検定試験の対策を目的とした授業を設置し、大きな成果を上げたことは特筆すべきである。

③ 今後の課題について(具体的に記述する。)

今後とも日本語能力検定に向けた教室の継続し、日本語能力検定試験に対しては学校全体として学習者を支援していく。

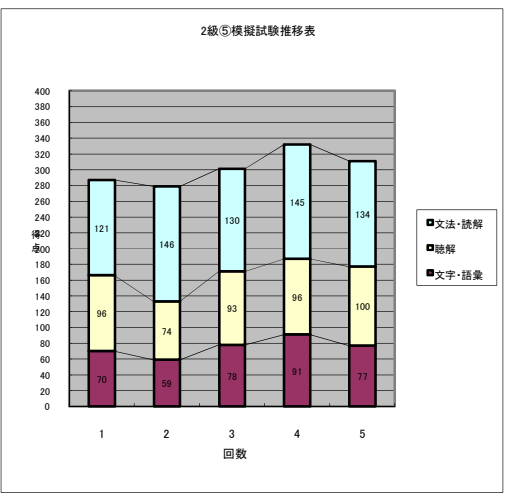
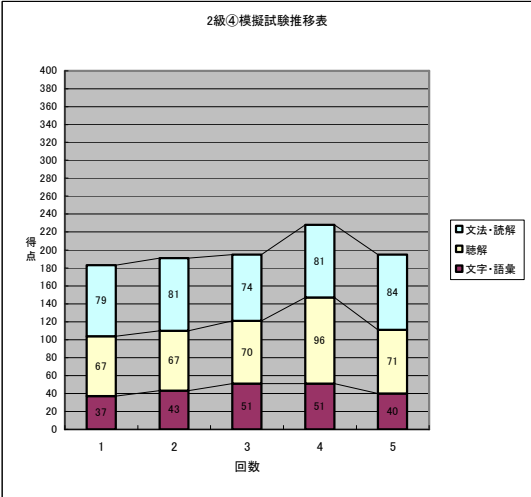
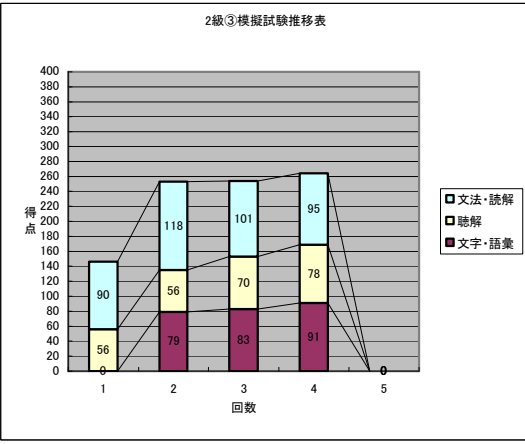
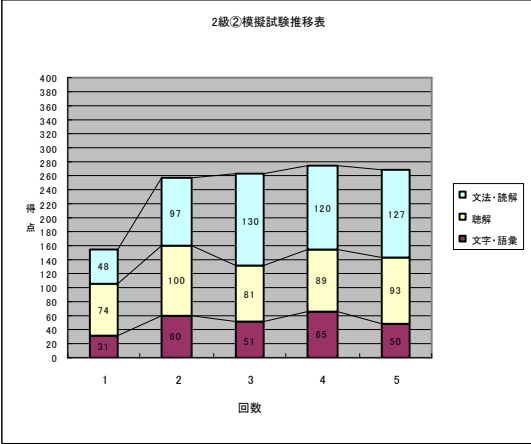
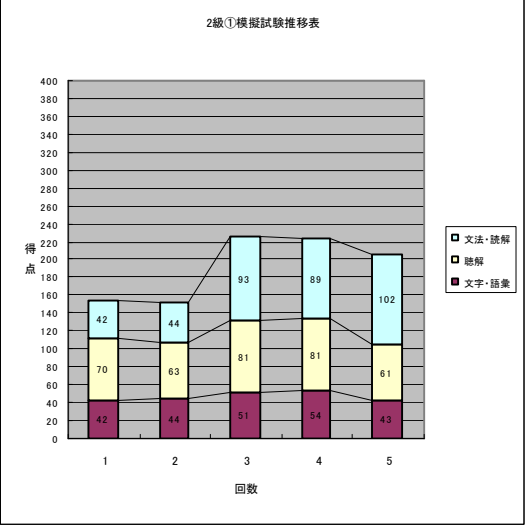
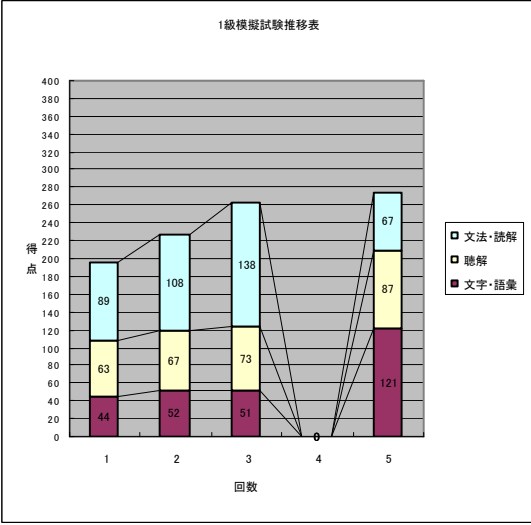
⑥ その他参考資料

【日本語能力検定力試験模試の結果】

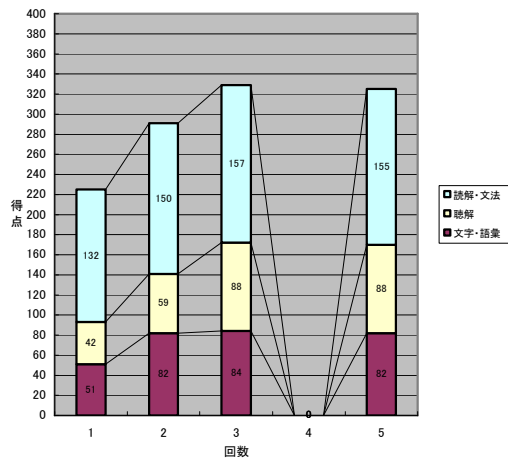
1級、2級、3級、4級の受講者はそれぞれ授業を通して大きな成果を上げることができた。授業実施期間中に5回に渡り日本語能力検定試験の模試を実施し、その成果を示す。

1級の受講者は1人、2級は5人、3級は9人、4級は14人がそれぞれ模試を受験した。初回と最終回のそれぞれの模試の点数を比較した。

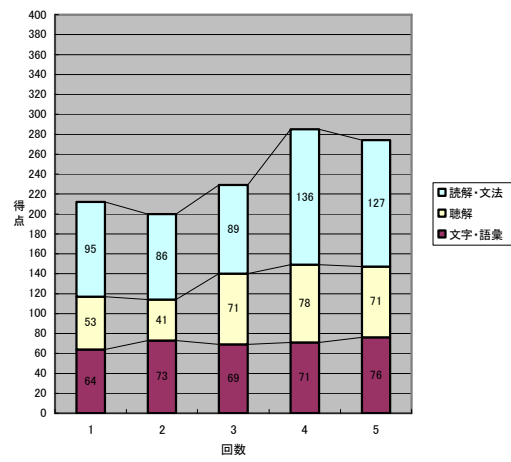
1級 40.3%、2級 24.3%、3級 21.1%、4級 52.1%とそれぞれの等級で、大きな成果を得られた。なお、5回の模試を受験した各受講者の点数は以下に示した。



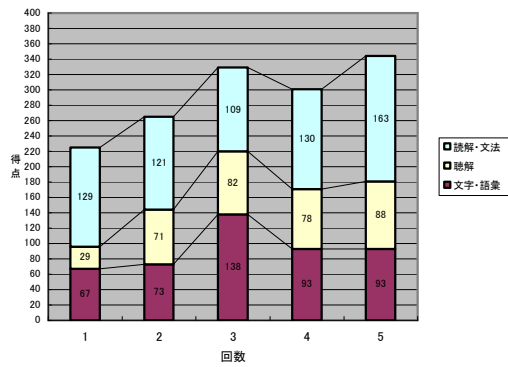
4級①模擬試験結果推移表



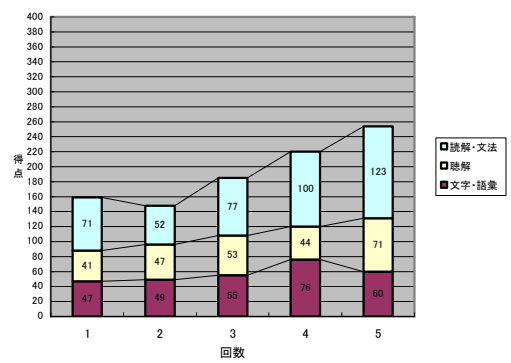
4級②模擬試験結果推移表



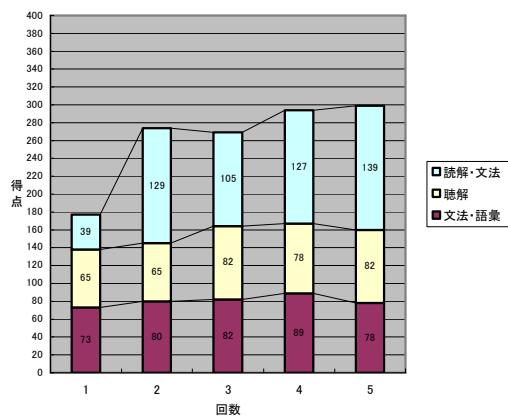
4級③模擬試験結果推移表



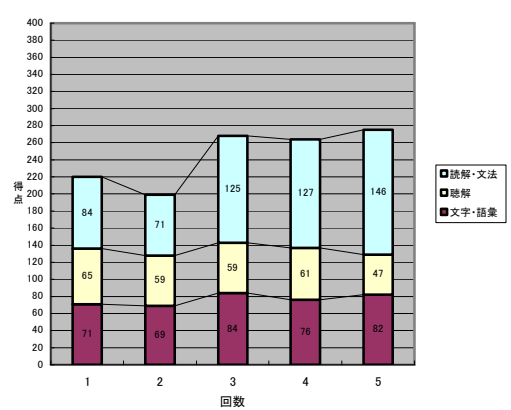
4級④模擬試験結果推移表



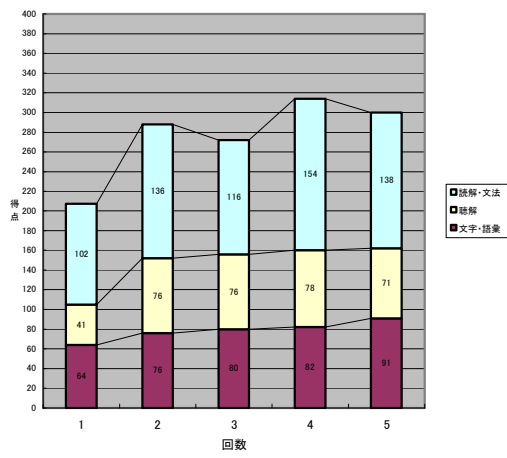
4級⑤模擬試験結果推移表



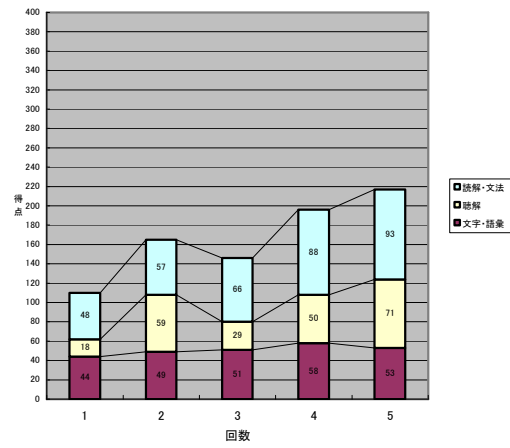
4級⑥模擬試験結果推移表



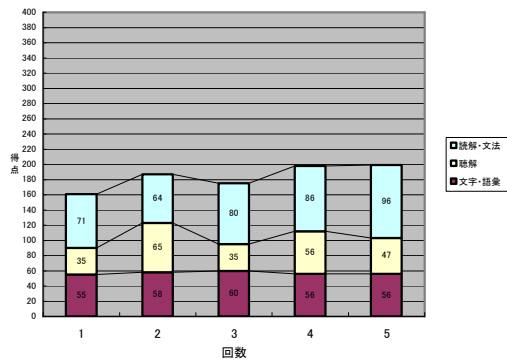
4級⑦模擬試験結果推移表



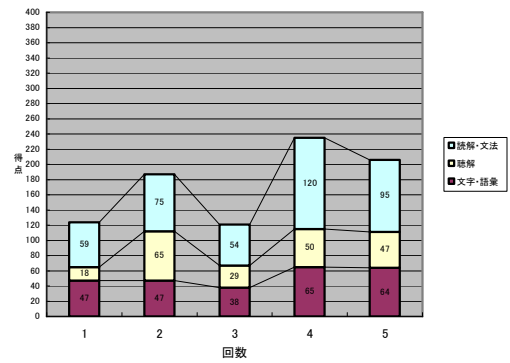
4級⑧模擬試験結果推移表



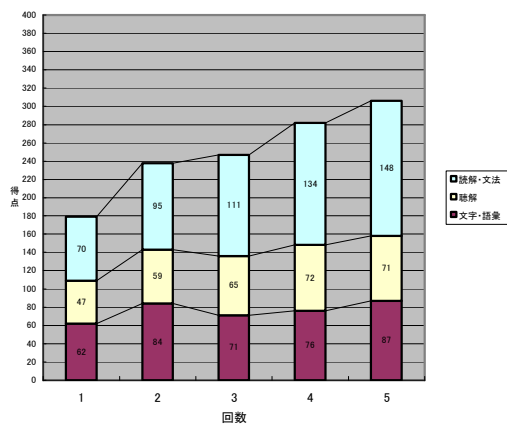
4級⑨模擬試験結果推移表



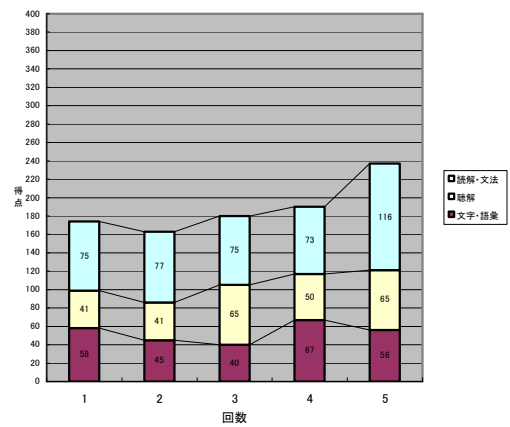
4級⑩模擬試験結果推移表



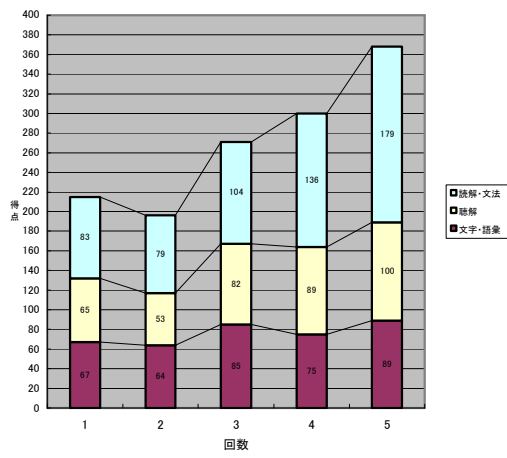
4級⑪模擬試験結果推移表



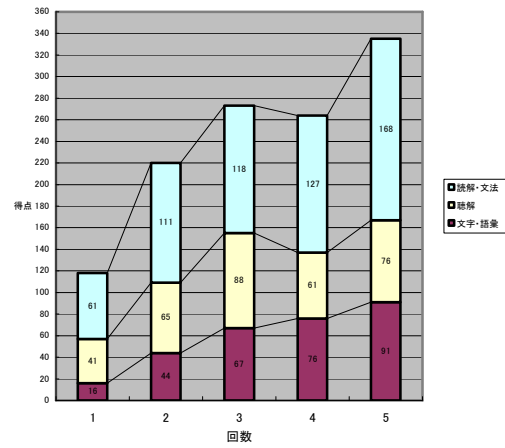
4級⑫模擬試験結果推移表



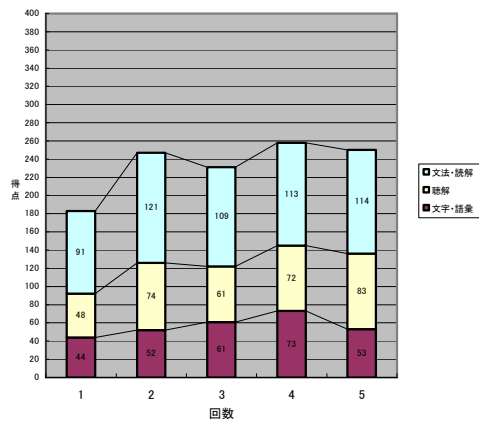
4級⑬模擬試験結果推移表



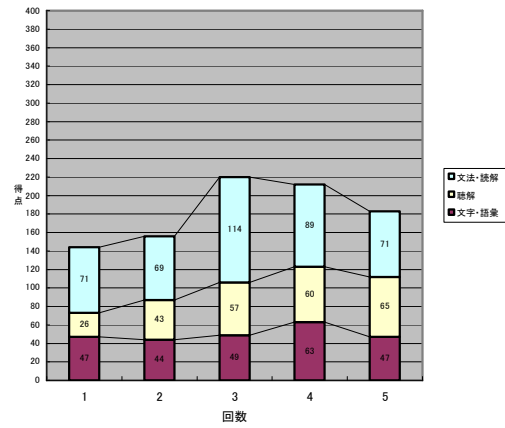
4級⑭模擬試験結果推移表



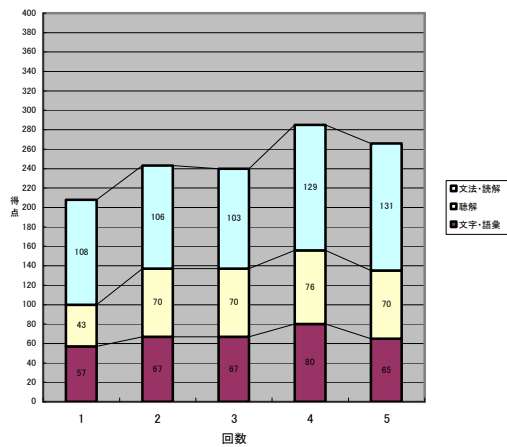
3級①模擬試験結果推移表



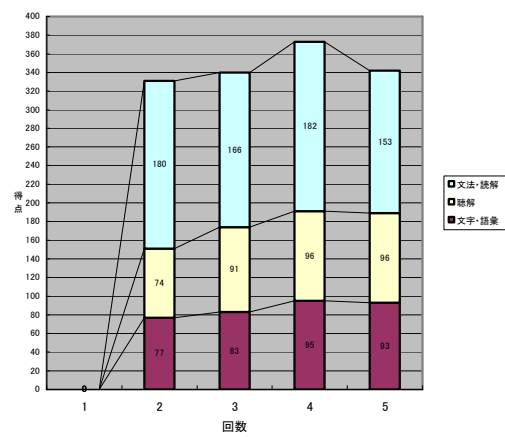
3級②模擬試験結果推移表

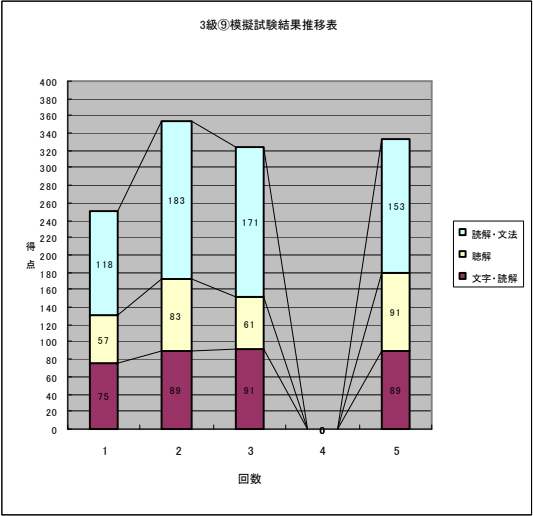
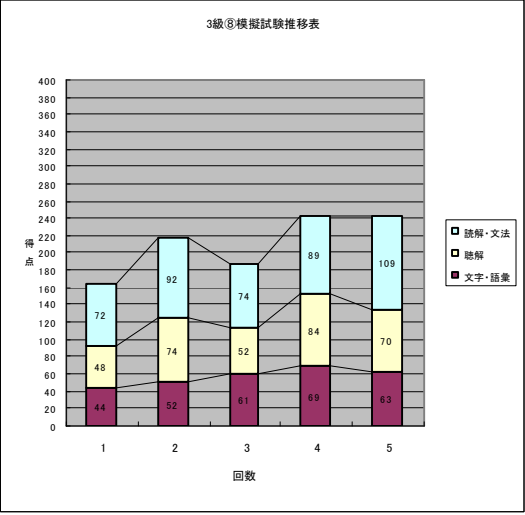
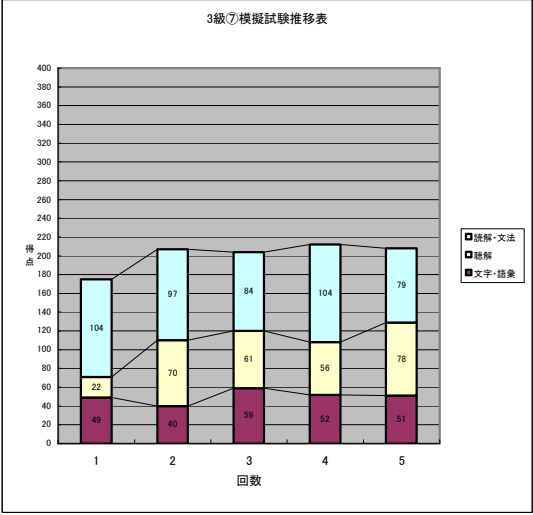
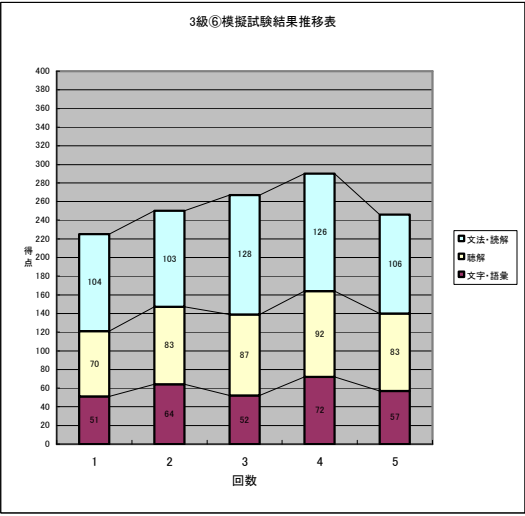
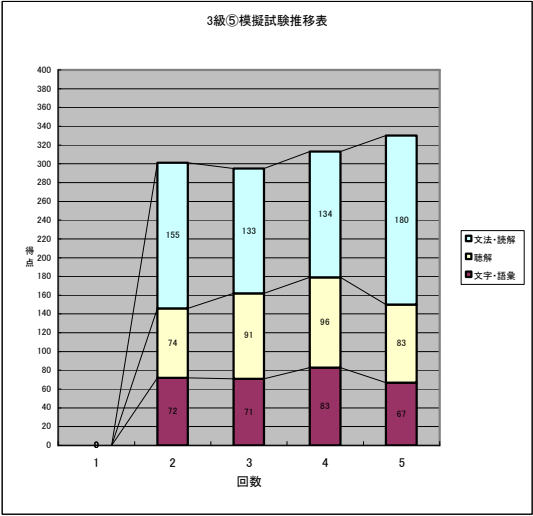


3級③模擬試験結果推移表



3級④模擬試験結果推移表





VI. 職業体験講座

- ① 日本語教室の名称：職業体験講座
- ② 開催場所：浜松周辺
- ③ 学習目標：教室内での日本語習得ではなく、生活場面での日本語習得を目的とした講座である。
- ④ 使用した教材・
- ⑤ 受講者の募集方法：ムンド・デ・アレグリア学校が外国人コミュニティに持つソーシャル・ネットワークを活用して受講生を募集した。
- ⑥ 受講者の総数 30 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 2期(1期10時間) 20 時間 (全 10 回)
- ⑧ 日本語教室の具体的内容：授業見学記録添付

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容
1 回	7 月 2 4 日 12:30~14:30	2 時間	2 5 人	1. ブラジルでの子どもたちの日本語教育の現状を話してもらう。2. ブラジルでの日本語教師の状況を話してもらう。3. 意見交換会
2 回	7 月 2 4 日 14:30~16:30	2 時間	2 5 人	1. 日系人対象の「夢の架け橋プロジェクト」奨学金の内容を担当者に説明してもらう。 2. 質疑応答
3 回	8 月 2 7 日 13:00~15:00	2 時間	2 5 人	卒業後の進路についての講習会
4 回	9 月 2 5 日 10:00~12:00	2 時間	3 0 人	①コロンビア出身の演出家・俳優オマール・ポラス氏による講演②オマール・ポラス氏演出の劇の観賞③交流会

4 事業に対する評価について

- ① 当初の学習目標の達成状況：達成できた
- ② 学習者の習得状況：様々な業種の職場見学を実施し、職業への知識や認識を深めることができた。また、企業の人事担当者を講師として招き、日本の企業文化・職業倫理、地域の産業について学ぶことができた。

④ 日本語教室設置運営の効果、成果

外国人学校内に職業意識を高め、職業倫理を育む授業を設置することに意義はある。南米日系人の子どもは学校を卒業してから、同世代の日本人の子どもと同様の社会的・経済的な接触を持ちえず、主体的に社会参加することができずに社会の周辺に置かれているのが現状である。外国人学校に在籍している期間に、職業意識を高めることで社会人として必要な基礎学力を身につける動機づけにもつながるからである。

VII. 日本語教室の名称：地域交流活動から学ぶ日本語

① 日本語教室の名称：地域交流活動から学ぶ日本語

② 開催場所：浜松周辺

③ 学習目標：教室内での日本語習得ではなく、生活場面での日本語習得を目的とした講座である。

④ 使用した教材・

⑤ 受講者の募集方法：ムンド・デ・アレグリア学校が外国人コミュニティに持つソーシャル・ネットワークを活用して受講生を募集した。

⑥ 受講者の総数 90 人（延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。）

⑦ 開催時間数（回数） 58 時間 （全 15 回）

⑧ 日本語教室の具体的内容：授業見学記録添付

回（※）	開催日	時間数	受講人数	内容
第1回	7月2日 7月3日	3時間	90人	1. セタの由来を知るために紙芝居を読み聞かせする。 2. 日本語ドレミのテキストを使い、セタについての由来を学習する。近隣の方にいただいた笹につける。幼稚園生は短冊に絵を書く。
第2回	7月10日	3時間	50人	ジュリーナ祭り 日本人スタッフや地域の方々にブラジルの踊りや食べ物を紹介することで、交流を図る。
第3回	7月14日	2時間	90人	1. 東警察署の方による交通ルールの説明（横断歩道の渡り方など）-講師は通訳をする。（1時間） 2. 説明の後、1時間日本語の授業をし、交通ルールの指示が日本語で理解

				できるようにする。 (1時間)
第4回	7月26日	3時間	50人	ペルー独立記念祭参加 浜松市及び領事館が後援して行なわれたペルー独立記念祭でペルーの踊りを踊り、ペルー文化を紹介すると共に地元の方々との交流を図る。
第5回	7月31日	6時間	15人	絵画コンテスト参加 いろいろな活動に参加することで、地域の人々と接する機会を増やす。
第6回	7月10日	3時間	90人	ペルー独立記念日行事に参加
第7回	7月28日	3時間	50人	ペルー独立記念日を皆で祝うと共に地元の方々を招待し、ペルーの民族舞踊を踊ったり、文化を紹介したりして、交流を図る。
第8回	8月2日	4時間	40人	ペルー独立記念を祝う多文化共生祭参加
第9回	8月3日/4日	4時間	ペルー・ブラジルの子ども 90人/日本の中高生15人	1. スペイン語での教科学習体験 2. 日本語教師体験 3. スポーツ交流
第10回	8月26日/ 27日/31日	8時間	90人	生徒は自ら夏祭りを計画・実行し、日本の遊びなどを取り入れた出店を企画し文化理解を深める。 お盆の由来を学習し、盆踊りを通して日本の文化に触れる。
第11回	8月28日	6時間	50人	野球応援を通して地域の人と交流を図る。
第12回	8月27日	4時間	90人	絵画コンテスト参加 海外日系人協会・JICA主催の絵画コンクールに提出するための絵を描く。
第13回	8月28日	6時間	50人	浜松ヤマハの野球チームの野球観戦
第14回	9月10日	3時間	10人	NPOモノづくり・シクミづくりの方々

				と6月に田植えをした稲を鎌で刈り、束ねて脱穀機にかける。稲刈りを通して、新津小学校の子どもたちとの交流
第15回	9月12日 9:00～12:00	3時間	2人	スピーチコンテスト高校生部門のゲストスピーカーとして日本語でスピーチをする。スピーチタイトル：「思いやり」

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分) 地域の夏祭り参加への準備



4 事業に対する評価について

- ① 当初の学習目標の達成状況:達成できた。
- ② 学習者の習得状況:地域の市民、市民団体と交流することで、地域の特色、地域の伝統文化を学ぶことができた。また地域住民とコミュニケーションを通して生きた日本語に触れることができた。参加した学習者は、自らが住む地域に対して誇りや愛着感を感じる事ができた。
- ③ 日本語教室設置運営の効果、成果
一般に外国人学校は、地域住民との関係性が希薄であることが多い。そのため、外国人学校内に地域住民と接点を持つことができる授業を設置することは意義があると思われる。

VIII. 体験型日本語コース

- ① 日本語教室の名称: スポーツを通して学ぶ日本語
- ② 開催場所: 浜松周辺
- ③ 学習目標: 教室内での日本語習得ではなく、生活場面での日本語習得を目的とした講座である。
- ④ 使用した教材
- ⑤ 受講者の募集方法: ムンド・デ・アレグリア学校が外国人コミュニティに持つソーシャル・ネットワークを活用して受講生を募集した。

⑥ 受講者の総数 25 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦開催時間数(回数) 2期(1期10時間) 20 時間 (全 10 回)

⑧日本語教室の具体的内容：授業見学記録添付

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容
第1回	9月5日 9:00～12:00	3時間	25人	国際ドッジボール大会～新津公民館～地元小学校の児童とのドッジボール大会
第2回	9月13日 9:00～15:00	6時間	8人	牧の原インデアカ協会主催のインデアカ大会に参加し、日本の児童・地域の方々と交流した。
第3回	9月27日 9:00～15:00	6時間	8人	浜松市インデアカ大会主催のインデアカ大会に参加し、日本の児童・地域の方々と交流した。

4 事業に対する評価について

- ① 当初の学習目標の達成状況：達成できた
- ② 学習者の習得状況：多種多様のスポーツ活動を日本語で指導することで、楽しく体を動かしながら日本語習得することができた。また、地域の学校や市民クラブチームとスポーツを通じ交流し、日本語に触れる機会が与えられた。
- ③ 日本語教室設置運営の効果、成果：外国人学校に在籍する子どもと同年代の日本の児童と接点を持つことができた。また、日本人の子どもや地域住民と交流することで、生活場面での日本語習得ができた。

授業見学記録「母語話者による母語を媒介とした日本語講座」

7月10日（金）13：30～14：45		クラス名：母語話者による母語を媒介とした日本語講座
担当講師： ジョアオ パブロ先生		補助者：岡則子先生、猪野待子先生、滝川文子先生
授業内容：文字学習（復習、は行・ま行）		当日受講人数（欠席人数）：10名（ 3名）
授業内容詳細		学習者の様子など
始業前	～は、～へ、等の読み方と書き方の違いについて学習者からの個人的な質問にジョアオ先生が母語で説明。	今日から参加の学習者2人は初めてなのでまだ書けないようだったが、他の人達は思い出しつつ書いていた。
13:30	ひらがなテスト（前回までの復習） ・ あ～な行の文字と、それを使ったことば（母語→日本語に）	
13:45	テストの解説 ・ ことばの部分について、意味など	講師の先生と、補助の先生で、一人一人に書き順や文字のバランス等の指導
13:48	は行 ・ 一文字ずつホワイトボードで書き順を示しながら、はね、はらい、文字の位置などについても母語で注意を促す。その後、学習者がノートに練習。練習している間は、講師と補助者が一人ずつ確認して回る。 ・ フラッシュカードで読みの確認（ひとりずつ） ※途中、今日就職が決定した就労支援クラスの学習者が来校したため、体験談を聞く。（正社員で採用、昨年11月から求職、日本語の学習も以前から同校の日本語教室でしていたそう。） 岡先生より、就職にむけての心構えのお話。本人の気持ちと、日本の会社でのルールを守ることが大事、欠席、遅刻時の連絡についての注意。	
14:10	ま行 ・ は行と同様。フラッシュカードでの読みの確認は、は・ま行合わせて。	
14:25	学習した文字を使ってことばの学習 ・ 先生の発音することばを聞き、書く。 はし（橋、箸）・ひる・ふね・へそ・ほし ※「る」については未習だった為、補足解説。	
14:45	宿題 ・ 今日学習した分（は・ま行）の練習プリント。 ・ 新しい学習者（2名）には以前のプリントも配布。	

短い単語だが、聞き取りはなかなか難しい様子の学習者もみられた。

授業見学記録「母語話者による母語を媒介とした日本語講座Ⅱ期」

10月12日(月) 10:20~11:20		クラス名:母語話者による母語を媒介とした日本語講座Ⅱ期
担当講師: サラ・ヨシサト先生		補助者: なし
授業内容: ひらがなの学習		当日受講人数(欠席人数): 2名(名)
授業内容詳細		学習者の様子など
10:20	ひらがなの学習「を」「ゆ」「ふ」※あいうえお順ではなく、画数が少なく易しい文字から学習。50音最後の3文字。 ●先生から文字の説明 ・「を」の説明。→「りんご^を食べる」の時に使う。 ・「や・ゆ・よ」の説明。→ローマ字「ya/yu/yo」は「ジャ・ジュ・ジョ」ではなく「ia/iu/io」と読む。 ・「を・ゆ・ふ」の書き順の説明 ●プリントを使用し、書く練習。 ・一文字ずつの練習と、各文字二つの言葉を手本を見て書く。「水^をのむ」「本^をよむ」「ゆ^うれい」「ふ^うせん」など。漢字も一緒に練習。言葉の説明もする。 ・学習者から質問があり、過去は「のみます→のみました」になることを説明。	授業前に2人に挨拶し、出身国を聞いたり、逆に名前を聞かれたりした。会話も少しできる様子。 以前、日本語の学習経験があるのか、教科書を持参していた。過去形に関する質問も出ていた。
10:35	濁点・半濁点がつくひらがなの学習 ●先生から説明 ・「がぎぐげご」「ぎじずぜぞ」「だぢづでど」「ばびぶべぼ」「ぱびぷぺぽ」を板書し、読み方について説明。 ●聞き取り・書く練習(濁点・半濁点の入った言葉) ・先生の発話を聞き取り、ノートに書きとる。言葉の意味の説明もしながら行う。(りんごをたべます、めがね、かぎ、にんじん、へび、かぜ、らくだ、えんぴつ、ちず、はいざら、げた、でんわ、こくばん、まど、うで)	
10:55	読む練習・語彙の確認 ●公文の絵カードを使ってひらがなで書かれた言葉を読む練習(ようふく、ひこうき、やま、ぬりえ、れいぞうこ・・・)・長音の読み方も一緒に教える。 ※絵と文字が一緒に書かれているので、名前を知っているものについては文字が読めるかどうかの確認にはならないかもしれないが、語彙を増やす為の練習、長音の表記の仕方などの練習になっていた。	
11:05	アンケート	

授業見学記録「生活者のためのサバイバル漢字講座」

8月 31日(金) 13:00～14:00		クラス名：生活者のためのサバイバル漢字講座
担当講師：内藤ひで子先生		補助者：川島宗司先生
授業内容：これまで学習した漢字の復習		当日受講人数(欠席人数)： 8名(名)
授業内容詳細		学習者の様子など
13:00	カードを使った読みの練習① ・これまで学習した1課の復習。 テキストに出てくる語彙をカードで練習。(全体→一人ずつ) 〈語彙〉 一緒に、一人、一つ、一日(いちにち、ついたち)、二つ、二人、二月、三つ、三月、三年、三日、山、山田さん、富士山、川、ナイル川、目、一つ目、目上、目的、目下、口、出口、入り口、人、イギリス人、人口、大人 ※「人口」「入り口」など似ていて間違いやすい語彙についてはゆっくり書き順などを確認する。	まだ完全に覚えきってはいないよう。カードを見てすぐに応えられる学習者はまだ少ないようであった。テキストで確認したり、先生のヒントを頼りにしたりして、ことばと漢字を一生懸命結び付けている様子。
13:15	書く練習① ・前で読み練習をやった語彙の中から抜粋して書く練習。1課に出て来ない、画数の多い漢字が含まれる語彙(一緒に、富士山、など)は除く。	
13:30	カードを使った読みの練習② ・1課の復習の続き。 テキストに出てくる語彙をカードで練習。(全体→一人ずつ) 〈語彙〉 木、木曜日、休み、休日、本、山本さん、日本、体、体力、田、田んぼ、山田さん、田中さん、力、男、男の子、男の人、男性、女、女の子、彼女、女性、安い、安全、安心する ※「安心する」の意味を、例をあげて説明。⇔不安	
13:45	書く練習② ・読み②で復習した語彙の中から抜粋して練習。	
13:55	読みの練習①②全部 ・一人ずつ、フラッシュカードで読む練習。	

授業見学記録「生活者のためのサバイバル漢字講座」

9月 24日(木) 12:45～13:45		クラス名：生活者のためのサバイバル漢字講座
担当講師： サラ・ヨシサト先生		補助者：
授業内容： テキスト4課 漢字の意味		当日受講人数(欠席人数)： 4名(名)
授業内容詳細		学習者の様子など
12:45 見学は 13:00より	テキストに沿って漢字の意味の説明① 「ストーリーで覚える漢字300」第4回 【可・何・手・刀・分・切・今・半・止・正・歩・足・走】 ・基本は、テキストに載っているイラストを、先生がホワイトボードに描きながらスペイン語で説明する。(イラストがわかりにくそうなところは多少アレンジしながら。)既習の漢字が含まれる漢字は、復習もしながら新しい漢字の意味も覚える。「足」では「口」、「走」では「土」など。 このテキストでは、形に繋がりがある漢字が続けて出てくるので、全く関連性のない漢字を同じ数だけ覚えるより、効率が良いと思われる。 漢字カードを使って意味の確認① 前半で学習した13文字の漢字をカードにしたものを順に見せ、意味が定着しているか確認。 テキストに沿って漢字の意味の説明② 第4回の続き 【起・夕・外・多・名・夜・生】 ・前半と同様に、ホワイトボードを使って意味を覚えていく。 漢字カードを使って意味の確認② 今日学習した「第4回」20文字を、フラッシュカードで確認する。 テキストの練習問題 個人でやってみる。内容：今日学習した文字の意味の確認。先生が回って様子を見る。	説明を聞きながら、ノートに漢字を書き、意味を母語で書いている。 20文字を短時間で覚えるのはやはり難しい様子。テキストを見ながら意味を答える。形が複雑でないものなどいくつかはテキストを見ずに意味を覚えて答えている様だった。
13:45		

授業見学記録「生活者のためのサバイバル漢字講座」

10月26日(月) 13:00～14:00		クラス名：生活者のためのサバイバル漢字講座
担当講師：内藤 ひで子先生		補助者：なし
授業内容：漢字学習(テキスト第5回)		当日受講人数(欠席人数)：4名(名)
授業内容詳細		学習者の様子など
13:00	月曜にやった漢字の読みの練習(板書を読む) 見る、元き、先せい、天気、文、父、母、行く、毎しゅう、海、東、西、南、北(学習者の住所を言ってもらう。浜松市西区、浜松市南区、浜松市中区) 耳、門、聞く、間	「中区」から「なか」と「あいだ」は違う?という質問が出る。(かばんや筆記用具などを使って説明)
13:30	フラッシュカードで読みの練習 見る、見せる、元気な、先に、先生、先週、先月、天気、文、作文、父、母、お父さん、お母さん、銀行、行く(行きます)、旅行する(旅行します)、飛行機、毎朝、毎晩、毎週、毎月、毎年、海、東、東京、西、南、北、北海道、耳、門、聞く(聞きます)、新聞、間、時間、四時間 ・読みと同時に意味も確認する。 ・「先に」の時は「お先に失礼します」という挨拶の仕方や使う状況について説明。実際に学習者にやってもらう。「お先に」の「お」について、「お箸」、「ご家族」などの例をあげ、丁寧な表現であると説明する。 ・「新聞」から、ニュースは何で見るか、という話が出る。夕方6時からのNHKのニュースがポルトガル語、スペイン語、英語などで放送されているので、そこで日本のニュースを見るそう。	
13:50	遅刻した時の謝り方 1名、遅刻した学習者がいたので、最後に遅刻した時にどのように言うか、という話をする。 先に「すみません」と謝り、後で「用事がありましたから、少し遅れました。」等と理由を言うように指導。	「おはし」は女の使う言葉ですか?という質問が出る。女、ではなく女性、という表現にするように指導。

授業見学記録「生活者のためのサバイバル会話講座」

8月 3日(月) 14:00 ~ 15:15		クラス名: 生活者のためのサバイバル会話講座
担当講師: 内藤 ひで子先生		補助者: 松本 雅美先生
授業内容: 自己紹介		当日受講人数(欠席人数): 8名(2名)
授業内容詳細		学習者の様子など
14:00	始めのあいさつ練習 「始めます」「よろしくお願いします。」 自己紹介の会話文導入1 (テキスト: 日本語初級・大地より) ・「はじめまして。」 ・「わたしは〇〇です。」 ・「よろしくお願いします。」 先生が例を見せてから、一つずつ練習。 ※名前に「さん」を付ける場合と付けない場合の説明。 ・「おくにはどちらですか。」 地図を利用して「国」の導入。一人ずつ順番に自分の国を言う。※同じ国が続いた時に私「も」の導入。 ・「そうですか。」	・「も」と「は」の違いが、なかなか理解が難しい様子だった。 ・まったくゼロの学習者と、少し話せる学習者の差があったが、なかなか言葉が出てこない人に対して、話せる学習者が助け舟を出す場面も見られた。 ・プリントでは二通りの答え方が示してあったが、上の例の答え方が難しいようだったので、下の例の答え方に統一する。 ・話せる人2名については、プリントを見ずにやるよう先生から指示。
14:30	自己紹介練習(チェンドリル) ・上で学習した文を続けて言う練習。 ・一通り練習が終わった後、会話例のプリントが配られ、それを見ながら再度チェーンで練習。	
15:00	自己紹介の会話文導入2 ・「〇〇人ですか。」 ・「はい、〇〇人です。」 ・「いいえ、〇〇人じゃありません。」 ・「はい、そうです」 ・「いいえ、違います、〇〇人です。」	
15:08	会話練習(チェンドリル) ・今日学習した文を通して練習。	
15:15		

授業見学記録「ヤラマイカにほんご教室」

8月 31日(月) 14:00～15:00		クラス名:生活者のためのサバイバル会話講座
担当講師: 内藤ひで子先生		補助者: 松本雅美先生、川島宗司先生
授業内容: 行きます、来ます、の復習		当日受講人数(欠席人数): 7名(名)
授業内容詳細		学習者の様子など
14:07	復習 ・ホワイトボードに絵を描いて説明。 「ジャスコ(市役所、会社)へ行きます。」 ・絵カードで「自転車で」「歩いて」「バスで」を示し、文を作る練習。 「ジャスコへ歩いて行きます。」「市役所へ自転車で行きます。」 ・自分がジャスコ(市役所、会社)にいるということを図で示し、 「友達がジャスコ(市役所、会社)へ来ます。」 ・地図を使って「ペルー(ブラジル)から日本へ来ました。」	
14:18	年の言い方復習 2009年(ことし) 2008年(きょねん、1ねんまえ) 2007年(2ねんまえ) ? (いつ) 自分のことについて言う練習 ・ひとりずつ自分のことについて言う。 「1995年(14年前)に日本へ来ました。」 ・先生→学習者。自分のことについて答える。 「〇〇さん、いつ日本にきましたか。」「〇〇年です。」 ・チェーンで会話練習。 A「いつ日本へきましたか。」 B「きょねんです。／3ねんまえです。／〇〇年です。」 A「そうですか。」 ・先生→学習者へ質問。 A「会社へなにで来ますか。」	
14:55	B「自転車で(歩いて)来ます。」	

授業見学記録「ヤラマイカにほんご教室」

9月 24日(木) 13:45～14:45		クラス名:生活者のためのサバイバル会話講座
担当講師: カイチョ・マックス先生		補助者: なし
授業内容: 文法(過去、否定)		当日受講人数(欠席人数): 5名(名)
授業内容詳細		学習者の様子など
13:45	動詞の意味確認 (日→ポ、ポ→日 一人ずつ聞く) 語彙: 勉強します、作ります、飲みます、起きます、寝ます、運転します、書きます、読みます	
13:50	非過去(肯定・否定)・過去(肯定・否定)の変換練習 ●①②③の変換練習。先生が口頭でキューを出す。 ① おきます→おきました ② おきます→おきません ③ おきます→おきませんでした	
13:55	応答練習 ●先生からの質問に答える。 「昨日は何時に起きましたか。」「7時に起きました。」 「今日は何時におきましたか。」 「昨日晩ごはんは何時に食べましたか。」・・・等 昨日のスケジュール発表 ●ノートを見ながら発表。「7時に起きました。10時にご飯を作りました。・・・6時から7時半まで日本語の勉強をしました」 ●一通り終わった後、先生から質問 「今日はどこへ行きますか。」「明日はどこへ行きますか。」等 今日の時制の確認 きょうのあさ＝けさ、きょうのよる＝こんばん、 まいあさ、まいにち、まいばん等の言い方も合わせて確認	
14:15	作文練習 ●「～を～ます。」一人ずつ考えて順に発表。ジュースを飲みます、本をよみます、野菜を買います・・・等 ●「～を～ますか。」「はい～ます。」「いいえ～ます。」一人ずつ練習した後、ペアで練習 ●過去・非過去を混ぜて先生と応答練習	助詞がやはり難しいようで、「に」「を」が逆になってしまう方がいた。 「時々」「たまに」について質問がでる。先生からポルトガル語で説明。
14:45	文のつなげ方について説明 「～て(それから)、～。」	

授業見学記録「生活者のためのサバイバル会話講座」

10月26日(月) 14:00~15:00		クラス名：生活者のためのサバイバル会話講座
担当講師：内藤 ひで子先生		補助者：なし
授業内容：好き、嫌いの会話		当日受講人数(欠席人数)：4名(名)
授業内容詳細		学習者の様子など
14:00	語彙の導入1(絵を見て答える) 水・お茶・紅茶・牛乳・ジュース・ビール・ウィスキー・お酒・コーヒー 「私は朝、お茶を飲みます。昼も飲みます。夜も飲みます。」 「私はお茶が好きです。」 …が すきです→板書 ●チェーンドリル(…がすきです、を順に言う。) 語彙の導入2(絵を見て答える) パン、肉、たまご、魚、ごはん ? がすきです。 ? がきらいです。 なにが すきですか。(きらいですか。) ●(T→S 応答練習) 語彙の導入3(絵を見て答える) キャベツ・きゅうり・トマト・にんじん・じゃがいも バナナ・りんご・すいか・ぶどう・みかん ●チェーンドリル(…がすきです、…がきらいです、を順に言う。) 語彙の導入4(絵を見て答える) サッカー・テニス・野球 語彙1~4のカテゴリーについて「飲み物」「食べ物」「野菜」「果物」「スポーツ」であることを確認。他のスポーツを学習者からあげてもらう。(バレーボール・水泳・マラソンは学習者から) …がすきですか。 はい、すきです。いいえ、すきじゃありません。 ●(T→S 応答練習) 語彙1~4を使って。 語彙の導入5(絵を見て答える) 映画、テレビ、ダンス、音楽、カラオケ どんな…がすきですか。 ●(T→S 応答練習)	「ほかには？」の質問がわからず、語彙4の中から好きなものを答えてしまった。 「すきです」が「すきます」になってしまい、なかなか直らない学習者がいたが、根気よく繰り返すうち、言えるようになった。
15:00	学習者の好きなテレビ番組(動物のクイズ番組)の話から動物の話へ。 「いっしょに動物園へ行きませんか。」「ええ、いいですね。」(喫茶店、レストラン)	

授業見学記録「就労支援のための日本語講座」

7月30日（金） 15:30～16:30		クラス名：就労支援のための日本語講座
担当講師： 瀧川 文子先生		補助者：なし
授業内容：形容詞文		当日受講人数（欠席人数）： 4名（ 3名）
授業内容詳細		気づいたこと等
15:30	テスト返却 宿題の答え合わせ このパソコンは・・・高いです。 このくつは・・・大きいです。等、対応するものを線で結ぶ	・「地下鉄は便利です。」 学習者は、「地下鉄」がわからなかったこともあり、「便利です」と結びつかなかった様子。
15:40	形容詞文（否定）導入 浜松は大きくないです。漢字は簡単じゃないです ・フラッシュカードで否定の言い方の練習 （い形容詞→な形容詞→混ぜて）	
15:45	程度の副詞（とても、あまり）導入 今日はとても暑いです。日本料理はあまりおいしくないです。 ・整理 にほんごの ベンキョウは とても むずかしいです。 むずかしいです。 あまり むずかし <u>く</u> ないです。 むずかし <u>く</u> ないです。 ・応答練習 ・ペアワーク…「勉強は_____か。」等、数問（テキストに沿って）。空欄部分に自分で形容詞を入れ、ペアで聞きあう。	
16:10	「〇〇はどうですか。」の聞き方導入 答える時の文と文の結び方（プラスの評価とマイナスの評価） ・～が、～（おいしいですが、たかいです。） ・～。そして、～（おいしいです。そして、やすいです。） ・日本の生活、日本語の勉強、漢字などについて学習者に質問 ・ペアワーク テキストに沿って相手に質問し（〇〇はどうですか。）、「が」「そして」を使って答える。ペアで発表。	
16:35	次回までの宿題 ・「日本語の勉強」「日本の食べ物」「私のアパート」について文を考えて来る。	

授業見学記録「就労支援のための日本語講座」

8月 21日(金) 15:30～16:30		クラス名：就労支援のための日本語講座
担当講師：瀧川 文子先生		補助者：
授業内容：好きです、上手です、わかります、～から～		当日受講人数（欠席人数）： 4名（ 名）
授業内容詳細		学習者の様子など
15:30	自己紹介（名前、国籍。新しい人が3人参加したため。） 復習 ・ 応答練習（先生→学習者、学習者→学習者） ① ○○が好きですか。（音楽・日本料理・スポーツ・映画） どんな○○が好きですか。 ・ 応答練習（先生→学習者）② ●●は○○が上手ですか。（奥さん・旦那さん・子どもさん）（料理・絵・歌）	今日から参加の方のうち1人は時々母語で他の学習者に質問することもあったが、2人は十分ついていっている様子だった。 ホラー映画、J-POP、などの語彙も生活の中で覚えたのか、知っているようだった。 学習者の内の一人は、カタカナがわかりますか、という質問に対し、習った文型を使うだけでなく、「読むのはOKだが書くのは難しい」、と自分の状況をより詳しく説明しようとしていた。
15:50	ペアワーク ・ ①、②を使い学習者同士で応答練習。 新出文型	
16:00	・ 導入 板書を読ませる。「あ、い、を」「エ、オ」「昨日」 ③わたしは _____ が わかります。 _____ ではありません。 （ひらがな・カタカナ・漢字） 程度の副詞も導入。 90%…よく 80%…だいたい 30%…すこし 10%…あまり 0%…ぜんぜん ・ 応答練習 ●●さんは○○がわかりますか。（ひらがな・カタカナ・漢字・日本のテレビ番組・バス、電車のアナウンス）	
16:10	・ 導入 「皆さんは、仕事をします、から、日本語を勉強します。お腹が痛いので<u>から</u>、会社へ行きません。（…5, 6 パターンの例）」 ④ _____ から _____ ・ 作文練習 「○○ですから _____。」「○○ませんか _____。」 「 _____ から日本語を勉強します。」	
16:25	・ 応答練習「どうして _____ か。」「 _____ から。」	

授業見学記録「日本語能力検定試験対策講座（１・２級）」

8月 27日（木） 13:45～14:30		クラス名：日本語能力検定試験対策講座（１・２級）	
担当講師：猪野 待子先生		補助者：岡則子先生	
授業内容：漢字、能力試験について		当日受講人数（欠席人数）： 5名（ 名）	
授業内容詳細		学習者の様子など	
13:45	漢字の学習 ①「婚」 ・書き順の確認 ・熟語を提示または学習者に発表させ、意味を確認していく 結婚、婚約、婚期、新婚旅行、未婚、既婚、離婚 ※途中、長音の表記について質問があったので解説 「りょうこう」 ②「礼」 ・書き順の確認 ・熟語 失礼・礼儀・礼拝・お礼・婚礼 難しい熟語は辞書を引きながら意味を確認。 「音読み」と「訓読み」の理解の確認 音読み→中国から伝わった読み方 訓読み→意味がわかる 漢字の２つの読み方、どちらが音読みでどちらが訓読みか。 漢字については自習ができるので、家で自分でも学習するよう指導。	・学習者からの積極的な発表・質問が多い。「婚活」など、最近テレビや雑誌等のメディアでよく使われる熟語も学習者から出てきており、普段の生活の中でも日本語に興味を持っている様子が見える。 ・辞書は国語辞典を使っている学習者とポルトガル語の辞書を使っている学習者がいる。 ・「春」「読」などの音・訓、全員理解している様子 ・3、4級の受験経験がある学習者と、日本語能力は高いが、初めての学習者がいる。	
14:20	日本語能力検定についてのお知らせ（岡先生より） ・来年から試験が変わり、聴解・文法・文字のいずれかが合格点以下だと不合格になる。これまでよりも合格が難しくなるので、今年合格するように頑張ろう。 ・先輩で1級に合格した人が日本語の先生になる例をあげ、学習に対する動機付け。		
14:30			

授業見学記録「日本語能力検定対策クラス（3級）」

9月 10日（木） 13：35～14：25		クラス名：日本語能力検定対策クラス（3級）
担当講師：猪野 待子先生		補助者：なし
授業内容：文法（～ながら～、～たいです）		当日受講人数（欠席人数）： 8名（ 名）
授業内容詳細		学習者の様子など
13：35	～ながら～ ●絵を提示して生徒に質問 「何していますか。」→「新聞を読みます」「ご飯を食べます」板書：新聞をよみます + ごはんを<u>た</u>べますながら ●絵を提示し、「～ながら～」の形で言う練習（8種類の絵）。 ・シャワーを浴びながら歌をうたいます。 ・歌をうたいながらダンスをします。…等。 （「ダンスをしながら歌をうたいます」でも良いですか。という質問が学習者から出る。言いたい方を後ろにします、と先生からの回答） ●先生の言葉を聞いてジェスチャー ・歌を歌いながら字を書きます。（生徒がジェスチャー） ・寝ながら笑います。…等。 ●先生のジェスチャーを見て、文を作る練習。 ●「～ながら～」のプリント	「読み<u>ます</u>、は何形？」という質問に対して「ます形」と生徒からすぐに回答が出る。文法用語も入っている様子。 （わからなかった子は母語でわかる子に聞いて理解していた） ジェスチャーはとても楽しそうだった。～ながらの意味も理解できている様子。
14：05	プリントの絵を見ながら順に言う。→プリントに記入。 ・テレビを見ながらごはんを食べます。 ・ガムをかみながらサッカーします。	
14：13	～たいです ●絵を提示して生徒に質問 ・「この人は？」→「のどがかわきました。」「水を飲みます。」板書：のどがかわきました。 ^{みず}水を<u>の</u>みます。 が たいです。 ・フラッシュカードで変換練習 ①いきます→いきたいです 語彙：勉強します、みます、たべます、かきます、（そうじ・けんか・しゅくだい）します、のみますかいます、よみます ②いきたいです→いきたくないです同じ語彙で変換練習	
14：25	●先生→生徒に質問（運用練習） 「何を買いたいですか?」「車（服）を買いたいです」…等	～たい、の意味が理解できている回答だった。

